

(セミナー名称)		
2021年度第1回山形県がん化学療法セミナー		
担当者氏名：富岡佳久		所属：大学院薬学研究科 がん化学療法薬学分野
内線： (795)6851	e-mail：	
1. 計画の名称		
2021年度第1回山形県がん化学療法セミナー		
2. 関連分野		
がん化学療法		
3. 実施報告		
<p>2021年6月27日(日)に2021年度第1回山形県がん化学療法セミナーを昨年度に引き続きWeb形式で実施した。</p> <p>特別講演Ⅰとして、鶴岡市立荘内病院 看護部 がん化学療法看護認定看護師の佐々木孔美先生から「外来化学療法室での胃癌化学療法の現状」と題してご講演頂いた。また特別講演Ⅱでは山形大学大学院医学系研究科医学専攻外科学第一講座 准教授 武者宏昭先生から「胃癌薬物療法と外科治療」と題してご講演頂いた。</p>		
4. 実施年月日・実施担当者・参加人数		
<p>2021年6月27日(日)</p> <p>東北大学 大学院薬学研究科 がん化学療法薬学分野 教授 富岡佳久</p> <p>59名が参加</p>		
5. 所要経費		
支出簿参照		
6. 成果		
<p>特別講演Ⅰでは、鶴岡市立荘内病院 看護部 がん化学療法看護認定看護師の佐々木孔美先生から「外来化学療法室での胃癌化学療法の現状-副作用マネジメントと多職種連携-」と題し、自施設の外来化学療法室紹介後、胃癌治療レジメンとして使用されるRam+PTX、Ram+nabPTX、SOX レジメンの副作用として、味覚障害、下痢、末梢神経障害について各副作用の症状やメカニズム、対処方法等について実際の症例を提示頂きながらご講演頂いた。患者が末梢神経障害＝手足の痺れと認識していることがあり、感覚鈍麻、異常感覚などの症状確認のためにも患者への聴取方法の重要性について講演頂いた。外来化学療法室の運用として薬剤師による指導の他、栄養士やMSWによる介入や認定看護師間での連携についても紹介して頂いた。</p> <p>特別講演Ⅱでは、山形大学大学院医学系研究科医学専攻外科学第一講座 准教授 武者宏昭先生から「胃癌薬物療法と外科治療」と題し、胃癌の疫学・分類、進展・転移形式といった基本的な内容を説明頂いた後、胃癌の治療としてガイドラインをもとに内視鏡的治療、外科的治療、化学療法等各論についてご講演頂いた。外科治療では腫瘍切除の術式や再建術について解剖図や自験例を用いて解説頂いた。なかでも腹腔鏡手術についてこれまでの経験を踏まえて講演頂いた。腹腔鏡下噴門側胃切除術(LAPG)と腹腔鏡</p>		

下胃全摘術(LTG)実施時の術後経口摂取量・体重変化量について自験データで解説頂いた。化学療法では進行再発胃癌に対する治療レジメンと術後補助化学療法について臨床試験の結果を含めて解説頂いた。

新規薬剤の登場によりガイドライン改訂や治療選択肢が増加する胃癌治療において、多職種による連携の重要性を再認識した有意義な研修会であった。

【当日の会場の様子など、写真を添付ください】